



写真：チャイナタウンでの夕食会

8月16日(月)

ファイナル・フォーラム直前準備

ファイナル・フォーラム前日となったこの日。全ての分科会が最終発表の作成や最後の詰め作業に従事した。発表原稿を作成する者、原稿の発表練習を行う者、準備が終了し力尽きた者…様々な表情の参加者でごった返したラウンジでの「最終調整」は明け方まで続いた。



写真：最終発表に向けて議論する分科会メンバー

8月17日(火)

ファイナル・フォーラム

いよいよ迎えたファイナル・フォーラム当日。1ヶ月間の会議の成果を社会に発信するべく各分科会最後まで発表準備に追われた。フォーラムではまず UC Berkeley で社会科学を専門とする T.J. Pempel 博士より御講演を頂き、続いて7つの分科会によるプレゼンテーションが行われた。その後、会場内で各分科会のブースが設けられ、発表内容についての活発な議論が行われた。フォーラム終了後には、メンバー一同サンフランシスコの街に

繰り出し、ほとんどホテルに缶詰状態だったフォーラム前の2日間を取り戻すかのように自由時間を楽しんだ。その一方で、翌日に迫った新実行委員選挙に向けて、立候補者は長い夜を過ごしていた。



写真：ファイナル・フォーラムの発表風景

8月18日(水)

新実行委員選挙、マイノリティ・フォーラム、レセプションパーティー

午前中は市立図書館の一室にて、新実行委員候補者達による立候補演説が行われた。立候補者の数は日米あわせて25名にも及んだが、最終的に投票、集計のプロセスを経て、日米8名ずつの新実行委員が選出されるに至った。その後行われたマイノリティ・フォーラムでは、「戦時期のマイノリティ」というテーマで、3名のパネリストの方から講演を頂いた。夕方には、サンフランシスコ湾が一望できる高台に立地する日本総領事館でのパーティーが行われた。各界から著名な方が集まるなか、メンバーは豪華に並べられた料理に舌鼓を打ちながら、貴重な交流の機会を楽しんだ。

8月19日(木)

自由時間、Angel Island 見学(任意参加)

1ヶ月間に渡ってタイトな予定をこなしてきた参加者にとって、終日自由時間となったこの日は貴重なりフレッシュの時間となっただろう。市内をレンタサイクルで観光したり、「移民の玄関」の愛称を持つ Angel Island を訪問するなどして、最終サイトを思い思いに満喫した。また、新実行委員として選出された参加者たちは、市立図書館の一室で役職担当や次年度会議の内容について、1

第3章 本会議・サイト活動

日中話し合うこととなった。



写真：Angel Island での記念撮影

8月20日(金)

自由時間、ファイナル・リフレクション

日本への出発を翌日に控えたこの日も一日の大半が自由時間となり、メンバーは市内の観光地を回るなどして過ごした。夕方には浜辺のベトナム料理屋を貸しきってファイナル・リフレクションが開催され、各々が1ヶ月間の会議を思い思いに振り返った。また、新実行委員からは来年度会議の理念や分科会内容が発表され、いよいよ会議のバトンは次年度へと渡されることとなった。



写真：新実行委員による発表

8月21日(土)

サンフランシスコ出発

会議最終日、日本側参加者が日本へ出発するときを迎えた。ホテルのロビーに全員分用意されたJASCメール用封筒には、1ヵ月分の思い出とともにたくさんの手紙が詰めこまれた。空港ではメンバー同士でプレゼントを渡しあったり、写真を撮るなどして思い思いに別れのときを過ごした。最

後に「また会おう」と再会を誓い合い、第62回会議の幕は閉じた。



写真：第62回実行委員での集合写真

■成果と考察

・サンフランシスコにおける人種や文化の多様性を体感

サンフランシスコは、「移民の玄関」としての歴史性から、特にアジア系移民の比率が高い。市域には、チャイナタウン、ジャパントウンなどのアジアの国々の名前を冠したエリアが点在し、起伏の激しい格子状の街並みのなかには多様な文化や人種が混在している。

このような、サンフランシスコでの人種・文化の多様性と、その背後に存在する差別の歴史や現状を参加者に体験し学んでもらうため、2日目のチャイナタウンでの夕食会や5日目のマイノリティ・フォーラム、6日目のAngel Island訪問などの様々なコンテンツを企画した。また、ファイナル・フォーラムに向けた準備が中心となった当サイトでは、比較的自由時間が多く、それらを利用して各参加者が自主的に様々な場所を訪問することができたようである。

このように公式行事としての企画に豊富な自由時間を使った観光等が相まって、多くの参加者にとって、他の3サイトとは一味違った、多様な文化を体感できるサイトとなったことだろう。

・1ヵ月の集大成を社会に発信

サンフランシスコでは、分科会におけるディスカッションの成果発表を中心とした、1ヶ月間の集大成となるファイナル・フォーラムが開催され

た。

7つの分科会による10分間ずつのプレゼンテーションは、その議題レベル（マクロ・ミクロ）や形式（概念の整理・プロジェクト提案型）の違いを問わず、日米の学生が様々な障壁を乗り越え纏め上げた力作となっており、その後の参加者との交流も含め、非常に質の高い発表であった。

・会議後も活動を継続していくための土台形成

しかし、具体的な提案を行った分科会が存在していながらも、会議後に継続的な活動を行っている分科会は、現時点では残念ながら存在していない。今後の課題としては、1ヵ月の議論で得た知見や提案を、各参加者がそれぞれの生活や専門分野のなかでどのように生かし、実践していくのかという点に集約されるだろう。その意味で、会議での議論を「社会に発信」していく作業は、参加者それぞれが今後とも継続的に行っていく使命なのではないだろうか。

また、第62回会議全体としては、そのような議論が今後とも継続するよう、定期的な勉強会や話し合いが行える環境を提供していく所存である。

■サイトコーディネーター後記

【加藤 梓】

サンフランシスコは第62回日米学生会議に参加した全ての者にとって様々な感情が入り混じるサイトだった。ファイナル・フォーラムの直前準備に対する焦り、JASCの終わりに描いていた自分の理想と現実とのギャップを受け入れる辛さ、1ヵ月走りぬいたことへの達成感、1年間精一杯作り上げてきた日米学生会議を次の代の実行委員に引き継ぐことに対する寂しさ。決して簡単に言葉に出来ない想いを個々人が持っており、気持のベクトルもあらゆる方向を指していた。

ファイナル・リフレクションでは、過ぎ去った日々の中の自分と向き合い、同じ空間に常にいた仲間と向き合うことで、自分にとっての日米学生会議の活動における点と点が結ばれ、線になっただけだ。さらに、それを真正面から70人に共有し

たことで、一人一人の線がつながり、何かの「カタチ」を描き、62らしさを創ったのだろう。

ゴールデンゲートブリッジを背に多くの参加者が口にした、「日米学生会議はスタートラインにしか過ぎない。この後の自分が日米学生会議で学んだことを活かさなければ。」という言葉は、参加者一人ひとりにとって、どれほど第62回日米学生会議が真剣に取り組むべき存在だったのかを示していると思う。

第62回日米学生会議は決して16人の実行委員だけで作り上げてきたものではない。未熟である私を補完してくれたサンフランシスコサイトコーディネーターを始めとするEC16人、さらに常に手を差し伸べてくれて、62回を最高のものに作り上げてくれた参加者全員に感謝の意を表したい。

【大宮 透】

私たちサンフランシスコサイトコーディネーターは、サイト運営において以下の4つの目標の達成を目指して活動していた。すなわち、①参加者がファイナル・フォーラムに向けて十分な準備ができる時間と環境を作ること、②1ヵ月の集大成となるファイナル・フォーラムを成功させること、③新実行委員選挙において満足度が高く円滑な運営を行うこと、さらに最終サイトとして、④参加者同士が自由に交流できる時間を豊富に提供すること、である。予期せぬトラブルもあったが、結果としてこれらについては概ね達成できたと感じている。多種多様な観光施設、豊かな歴史性に彩られたサンフランシスコの特色、発達したバスや地下鉄等の公共交通、その他様々なサイト独自の魅力がこの目標達成を手助けしてくれたのは言うまでもない。

また、第3サイトとの環境面における急激な変化から参加者の体調が心配されたが、特に問題なくサイトを終了できたことは、実行委員として非常に安堵している点だ。この場を借りて各自体調管理を徹底してくれた参加者全員に感謝の意を表したい。

個人的な話を少しすれば、米国への渡航経験が

第3章 本会議・サイト活動

ない私にとって、その米国開催におけるサイトの企画・運営を自分が担えるのかどうか、これは1年を通してずっと悩んできたことだった。しかしそんな頼りない私を最後まで見捨てず、このような素晴らしいサイトを一緒に作り上げてくれた当サイトコーディネーターの梓、Ikuno、Mariamaの3人には心の底から感謝の気持ちを伝えたい。本当に最高のパートナーだった。彼らと交わした膨大な量のメールと、サンフランシスコを走り回った日々は、私にとってかけがえのない一生の思い出である。

最後に、日米両国において当サイトの成功のために陰日向で尽力していただいた全ての方に感謝

の念を申し上げて、サイトコーディネーター後記としたい。本当にありがとうございました。



写真：サンフランシスコサイトコーディネーター
(左から大宮、Ikuno、加藤、Mariama)